



みんなのできる 地球温暖化防止活動

— 地域の子どもたちと、川の生き物調べをしています!! —

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク)

令和元年東日本台風（台風19号）

本宮市で農業をしている福島県地球温暖化防止活動推進員の古川洋一さんは、「水は生活や農業にはなくてはならないものですが、台風19号のように大きな被害をもたらします」と、顔を曇らせます。2019年10月13日のことです。安達太良川の堤防が決壊、更に阿武隈川が氾濫し、本宮市の広い地域で被害が発生しました。白沢地区の白沢揚水機場では、地下ポンプ室及び1階電気室が水没し、稼働できなくなりました。

■推進員になつたきっかけ

「農業は、自然相手の仕事です。夏の高温、暖冬や降雪の減少など、気候の変化には敏感です。子どもたちに、自然環境を壊さずに残したい、何かしたいという思いから」、推進員養成研修会を受講し、委嘱申請をして2001年に推進員になりました。「推進員の中では、古株ですね。」推進員活動を継続するコツは、

無理をせず地域の中で、地域の人たちと一緒に活動することだと言います。

■松沢エコクラブ

環境省が1995年に始めた「こどもエコクラブ」という事業があります。幼児（3歳）から高校生までなら誰でも参加できる環境活動です。「松沢エコクラブ」は、その一つです。「本宮市松沢地区（旧白沢村）」に、サワガニ、ヤゴ、ヒラタカゲロウ、ヒル、ドジョウなどが住む小川があります。毎年、子どもたちとお盆の時期に水質検査をしています。水辺の生き物から水質判定ができるんですよ」と、目を輝かせます。福島県から試薬の提供を受け、COD（水の汚れ）パツクテストも実施しています。本格派です。

■みんなのできる地球温暖化防止活動

「子どもたちに、カブトムシはどこにいるのと聞くと、近くのスーパールの名前を言います。このままではいけないと思います。屋外活動を通して自然に触れてほしいです。」古川さんは地域の推進員の仲間と、水色公園で5月25日開催された第25回こどもまつりに参加し、温暖化防止の啓発活動をしました。「地域に根ざした地道な活動が大事なんです。爺ちゃんありがとうといわれた時には、胸がジーンとなりました。照れくさいですが。松沢地区の水辺で推進員活動です。」

(Web) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>